めいろうこどもえん　６月園だより

２０２４年度 年主題　〈さあ、漕ぎだそう　奏でよう〉

0･1･2歳児６月主題　「あれっなんだ」

月のねがい

◎保育者の祈りやさんびかを歌う姿に触れる(0)◎自然に触れ親しみ、心と身体で感じる(0)◎周りの人に興味をもち、関ってみようとする(0)
◎保育者の祈りや賛美に心を合わせ、神さまを感じる(1.2)
◎自分好きなものと関わる中で、興味を広げていく(1.2)
◎梅雨の自然や小動物に触れ、季節を感じる(1.2)

3･4･5歳児６月主題　「みつける」

月のねがい

◎保育者と祈り、賛美する生活を通して神さまの存在を知る(3)
◎自分の思いを言葉だけでなく笑ったり泣いたりして表情や姿でもあらわす(3)
◎身近な自然に関心を持ち、よく見たり、触れたり、拾ったり、見せ合ったりする(3)
◎うれしい時も悲しいときもともにいて下さる神さまに感謝し、礼拝の時を喜ぶ(4.5)
◎友だちと一緒に楽しみ満足感を感じる(4.5)
◎園内外の自然に触れ、気候の変化を感じ、開放感を味わう(4.5)

今月の聖句　「見よ、それは極めて良かった」　創世記1:31

先日、100人規模のある会議を開いていた時のことです。この会議のために、とても性能の良いワイアレスマイクを導入しました。音質も音量も申し分なく、テストの段階では完璧だったわけです。ところが、実際に使い始めると、時々ノイズが入り始め、結局有線マイクでやり取りするはめになりました。原因は目に見えないWIFIの影響であったことが後から分かりました。誰かがスマホ等でインターネットにつなげるとノイズが入ってしまったようです。「極めて良い」と思っていたのに、思わぬ落とし穴が待っていました。

聖書は、天地創造の神が宇宙も、私たちの住む地球も、動植物も、そして何よりも私たち人間を造られたと語ります。そして、全ての創造物の中で、人に対してだけ「極めて良かった」と言いました。けれども、そこにノイズが入り込んだのです。「極めて良い」はずの人間の中に、罪というノイズが入り込むようになりました。今日の社会で起こっている様々な悲惨な出来事の根底に、この罪の問題が関わっています。残念ながら、他人ごとではなく、私たちもその影響を受け、罪を抱えています。どうして可愛い赤子が成長するにつれて、思いもしなかった言動に出ることがあるのか。家庭の中に、社会の中に、悪が潜み、罪というノイズが徐々に私たちの心を蝕むからです。

けれども、そういう堕落してしまった罪人なる私たちを、神さまはもう一度「極めて良い」状態に戻してくださいます。それが神の御子イエス・キリストの存在なのです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネによる福音書3:16)。

協力牧師　池田基宣

みぬいている

おかあさん
あたしのおともだちが
あそびにくると
やさしいかお
してなくちゃ
なんないから
つかれちゃうでしょ

茨木6歳女児

６月の行事予定

1日（土）	熊毛地区教職員研修会
4日（火）	歯科検診(13:30～)
22日（土）	夏祭り実行委員会(10:00～)

７月の行事予定

3日（水）	海あそび(4.5歳児)※弁当日
5日（金）	七夕事業所訪問
8日（月）	７月誕生会
10日（水）	海あそび(2.3歳)
13･14日	お泊まり保育（年長児）
未定	市営プール（4.5歳児）
18日（木）	弁当日
19日（金）	１学期終園式

大きく、大きくなぁれ！

新学期がスタートして約2ヵ月が経ちました。
それぞれが新しい環境に慣れ、お友だち同士の賑やかな声がどのクラスからもたくさん聞こえてくるようになりました。 これも少しずつこども園が安心する場所になってくれているのだと嬉しく思っているところです。

今年度の園の研究テーマは「食育」。4月には、田植えや野菜の苗植えを年中長児を中心に行いました。その苗の生長をいつも楽しみに観察しています。ある女の子が 「先生、見て見て！ピーマンの花が咲いているよ！茄子もきゅうりも花が咲いてる！」と大興奮で伝えにきてくれました。朝の水かけも楽しそうに手伝ってくれていたので、相当嬉しかったのでしょう。見ると、可愛い花を幾つも咲かせていました。野菜とは違う色の花が咲くのだという発見！をすることもできました。今では、野菜や米の生長をみんなで観察するのが日課になっています。

一方、青々しく伸びる米の苗。
おたまじゃくしやカエルが気持ち良く泳ぎ、水面から顔を覗かせるのを見るのが大好きな子どもたち。時々田んぼに足がはまってしまう事件もありながらも、「早くお米にならないかな～」と口にする日を楽しみにしているようです。

先日、「栄養」について園内研修を行い、学びの時間をいただきました。一般的にも知られていることが多いですが、成長過程にとても大切な栄養素はタンパク質なのだそうです。そして栄養素を上手に体に取り入れることで、腸や脳、発達の働きをスムーズに助けてくれるという内容でした。また、その土地で採れた旬の食材も体を元気にしてくれるということも学び、今まさに子どもたちと取り組んでいる米と野菜に繋がってくるのではと感じたことでした。
収穫、実食にはもうしばらく時間が必要ですが、自分たちで世話をし、育てる楽しさと実りに感謝をしていただく喜びをみんなで感じることができたらいいなと願っています。

６月は雨も多く憂鬱になりがちですが、旬の食材をいただきながら元気に過ごしていきたいものです。　渡邊

例年より台風一号の発生が遅かったようですが、こんな年は六月の発生数が多くなるようです。また、全国的に梅雨入りは遅く、梅雨明けは例年並みで、短期集中型になるとのことです。そして、相変わらず暑い夏が来るようです。

本園が加入するキリスト教保育連盟はプロテスタントの教会系の集まりですが、先日ある研修会でカトリックの神父さんの講演を聴く機会がありました。その片柳弘史神父は、少し変わった経歴の持ち主。慶応大法学部出身で、ある日思いついてインドへマザーテレサに会いに行き、彼女に勧められ神父の道を歩まれたとのことです。著書の「あなたはあなたのままでいい」にある「放蕩息子」で知られている聖書のお話をご紹介します。

自分がやがて相続するはずの財産を父親に懇願して受け取り、それを金に換えて都会に出た若者の話です。父親は農園主で金持ちです。たぶん彼は、日々の畑仕事に満足できず、都会に出て一旗揚げてやろうと思ったのでしょう。現代でもよくある話です。ところが、都会での生活はそんなに甘くなく、刺激的な生活の中でたちまち財産を使い尽してしまいます。田舎から出てきた世間知らずの若者に、持ち上げてたかる人がいるものです。当然彼らは、お金がなくなると手のひらを返すように若者のもとを去り、誰も彼を助けてくれる人はいなくなりました。いよいよ食べるものにも事欠くことになり、彼は父親のもとに帰って使用人の一人にしてもらおうと決心します。父親の大切な財産を遣い果たした以上、自分にはもう、息子と呼ばれる資格がないと思ったからです。ところが、父親はそんな彼をあたたかく出迎え、「死んだと思っていた息子が帰ってきた。共に喜んでくれ」と大喜びしました。財産を失ってぼろぼろになったとしても、息子は父親にとってかけがえのない人生の宝だったのです。お金や名誉、権力などを当てにして集まってきた人たちは、それがなくなればたちまち去っていきます。しかし、家族は私たちがすべてを失ったとしても、自分の家族だという理由だけで受け入れてくれるのです。この話は、わたしたちにそのことを教えてくれます。私たちの本当の幸せは、お金や名誉、権力などを手に入れて人からチヤホヤされることではなく、何があっても自分を見捨てず、あたたかく受け入れてくれる家族や仲間の中にこそあると信じたいですね。神さまに「極めて良い」とされた子どもたちに、『あなたはあなたのままで愛されます。』『あなたは、あなたのままで価値があります。』といつも伝えていきたいと思います。

六月を迎えて、子どもたちはずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きが感じられます。日々の経験から得る「自分」や「気づき」が興味を広げていきます。「先生、見て！来て！」と、自分の存在を認めて欲しいと願う気持ちこそ、自律ある育ちの原動力ではないでしょうか。

最後になりましたが、フリー参観・試食会会には多くの方の来園をいただきありがとうございました。子どもたちの日常の活動等を通して、集団生活での姿を少しご覧いただけたかと思います。少々うつとうしい日々が続きますが、早寝・早起き・朝ごはんで元気に登園できますようご協力をお願いいたします。　園長

子ども健康な身体を育む食育

５月に実施した食事･生活調査のご協力、ありがとうございました。各ご家庭での食事の様子もその中からうかがい知ることが出来ました。園でも、”落ち着いた雰囲気の中で皆が美味しく食べる”を目標としていますが、４・５月の子どもたちの給食の様子を見ておりますと、椅子に座ったときの姿勢が崩れたり、途中で席を立ったり、おこぼしが多かったりと、気になっています。食事のマナーは、自分自身が食事をきちんと行うことが出来るようになるためと、周りの人たちに嫌な思いをさせないもののためです。自分のため、そして周りの人のために食事のマナーも守れるように習慣つけていきたいものです。今年度の職員研修のテーマが「子どもの健康な身体を育む食育を考える」です。保護者の方々とも子どもたちの姿を共有していただきながら、子どもたちの健やかな育ちの為に出来ることを考えていきたいと思います。

では、姿勢がくずれる原因については
・悪い姿勢が習慣化した
・外遊びなど全身を使う機会が減った
・ソファに座る機会が多い
・ゲームをする姿勢が悪い　　等々
生活環境や生活習慣によるものなども原因として挙げられます。姿勢改善に向けた取組みとしては

良い姿勢の形を知り、
よい姿勢をとる習慣をつけてあげる

理学療法士の西村猛さんは『子どもと姿勢研究所』を立ち上げて活動をしながら、「姿勢ピン！ポーズ」を提唱しておられます。子どもたちの丸まった背中を伸ばすと、集中力が上がる・体幹筋が強くなる・ケガをしにくい からだに整えられていきます。

大人の私たちも、運動不足から背骨の柔軟性がなくなり首･肩・背中がガチガチになっていませんか。しっかりと胸をはる・左右の肩甲骨を真ん中に引き寄せる・背中を真っ直ぐにして上に伸びあがる等の姿勢を意識しながら心地よい生活を送りたいものです。　園長